闘いは必ず勝つ

関西共同デスク　ピケや懇談会へ

オルグ往来あいついでいるなかで、十五日には関西から共同デスクを編成して十六名が来山した一行は該組、府・市職組、国際電電労組をはじめ、各産業別からなるもので、三班にわかれ各支部に入つてピケに加わつたり、地域で懇談会をひらいて闘争に参加した。十六日離山を前に全員集合して自分たちの体験を交換しあつたが、帰阪ごは各組合の機関紙を通じてさらに闘争支援に拍車をかけることが誓われた。

デタラメな裁判

A　小浜南に入りピケに加わつたり、夜は座談会をひらいた。活動家の理論的水準は高いワ。普通の人の意見をそれとなく聞いてみると「組合に多少の批判はあつても、自分たちは全体として支えて行かねばならぬと思つている」といつていた。労働者の連帯意識だね。これは、戦前放漫の如く使われていて、戦後組合ができて組合の有難さをいやというほど知つた。皮膚的な組合信頼が根強く張つているこれが理論は別として、組合を信頼して闘つていると感じた。

C　私はとくに主婦の強さを非常に印象づけられた。あれだけ交流し合つた組織が、自分の所では出来るだろうかと思う。総評のオルグについては「オルグの人たちがこられるので、私たちの闘いが全国の仲間から支えられているのを、ひしひしと感する」といつていた。三池労組にはお世話だろうが、自分たちとしては沢山のオルグを送ることが闘いをひろめることだと痛烈に思つた。

B　私は大島二分会に入つたが、オルグの受入れ状態が実にコマヤカで、こちらが恐縮するほどだつた。

D　私が行つたところでは、今まで苦しい闘いをつづけてきただけに、今の闘争はカンパや支援で恵まれているといつていた。そして、この状態なら組合はツブれないと自信たつぷりだつた

E　私は新港に行つたが、ちようど裁判があつていたので、大阪とどう違うかと思つて見に行つた。全くヒドイ裁判ですワ。裁判官が検事と一緒になつて答弁したり、検事の答弁を裁判官が答弁したり、傍聴人と応酬したり非常に奇異に感じ大笑いした。

G　私も裁判に行つた。大阪では裏の方ではウマクやつているだろうが、表面では公平にやつている。ところが、大牟田ではロコツで驚いた。裁判官が検事と相談して答弁していた。社宅を回つてみて組合の強いのがハツキリした。家庭にシツカリ根を下している。大阪では社宅は会社のPRの場だがここは違う、非常に学ぶところが多かつた。

F　オルグについてだが、ピケから帰つてくると雑誌を読んでいる人が多い。体は動くが、頭も動かせたらと思つた。各組合から書籍でもカンパして、安易に読めてしかもピケを張つていたときのイメージに重なるような本を入れたいと思つた。

H　私は大島分会に行つたが、ここでは闘いに勝つた後第二組合のことまで心配していた。マスコミに対する非難は大きい。労働者の方からマス・コミをつくることが切実に望まれている。また、安保はどうなるかと心配していたが、三池が勝つことによつて安保も粉砕できると討論して結論を出した。

統制が厳しい第二組合

私はここで第二組合から帰つて来た人と話をしたが、いつの間にか第二組合がつくられ、知らぬ間に向うへ行つていたという第二組合は統制が強くて動けないので帰つて来たといつていた。また、ここでは商業新聞があまりデタラメ書くので郵送して送り返したりしていた。オルグがキ張面に日記をつけて指導しているのには感心もし、きすがだなと思つた。

E　実際、新聞に対する怒りは大きいね。私のところでも、今まで信頼していたのが裏切られたと怒つていた。ここでも、マスコミ対策が話合われていた。

金を送らねば……

K　会社は意識的に第二組合を新組合と呼び、組合を旧労組といつているが、旧労組とは非常に悪く耳に聞こえるし、一般の人に悪い印象を与えると皆は怒つている。

G　私は紅葉ガ丘、銀水分会に行つた。子供たちは少しも暗いかげがなくピチピチしているね。小遣なども自分たちできめ、風呂帰りなど母親が蜂巣を締めるのを忘れていると、逆に注意している。大牟田に来て痛切に感じたことは、三井の歴史を調べると、組合がどうして強くなつたかが分かつた。労務政策に対する不満がこうなつたのだよ。強行就労のことで聞いてみたが勤続二十五年という採炭の人たちが「俺らが行かんでスミがどうして掘れるか」と自信に満ちていやべつており、第二組合の就労には少しも心配していないのには感心した。

I　悲壮感が全然なく、首を切られた人が少しも悲観していなく誰が該当者か全然わからん。闘いは勝つと思つたよ。とにかく私は金だと思う。会社や第二組合に対抗する上でもみんなで力を集めてどんどん送ることだそうすれば絶対だよ。

予供がいう正義の味方

M　宮浦に行つたが、途中で子供が遊んでいたので「お前たちはどつちに応援するか」と聞いたところ、みんなが〝第一組合〟という。理由を聞くと二年生の子供だが「ヨカ人ばかりおらすケン」といつた。つぎの子は「正義の味方」といつた。（笑）

四年生の子は「貧乏人のために闘つとるから」といつたが、ビツクリしたな。

創価学会に入つているという闘争員の話を聞いたら「信仰は信仰、組合は組合だ。割切つている」ここでは四人のうち三人が脱落していたが、それについて「宗教も組織されているから組織人としての義務は守らねばならない。それなのに組合の組織を破つて脱落するようなものは邪教だ」ときめつけていた。

N　該組のオルグなどはもつと有効に使うべきだ。下手だと思つた。子供や教育の問題で地域へ行かせたらよいと思う。それに、やたらに忙しい忙しいといつて精神的な生産活動がやられていないように思つた。社宅に留守を守る子供、老人、主婦にも思想的な働きかけを行うべきで、そういう任務をもつた特別の班をつくつたらどうだろう。

ホツパーに元気でピケを張る組合員

全力をあげて　総評・臨時大会の公算も

三池をつつむ

――以上三点で意志統一し、八日から始まつた炭労臨時大会に対して「最大限の力量を発揮して産業別統一闘争を強化し、首切り撤回まで闘うことを要望する」との態度を決定した。このため総評としてはメーデーまでを目標に久保清さんの遺族救援カンパとして全組合員一人十円を集め、引きつづき各単産は三池闘争についての啓蒙活動を徹底し、抗議、激励活動を強化することになつた。また万一炭労大会が三池を切りすてることになつたような場合は、ただちに拡大評議員会または臨時大会をひらいて総評としての態度を協議することにしていた。いまのところ臨時大会が招集される公算が大きい。

すでに〝日刊情報〟で伝えたように、あつ旋案を拒否して闘う三池に総評は全力あげて闘う態勢をつくつているが、緊急評議員会できめた詳細な内容はつぎの通りである。×××

総評は炭労大手十三社の賃上げ闘争妥結（五百、三百九十五円で妥結）で孤立化した三池闘争を救うため、五日東京麹町の自治労会館で緊急評議員会をひらき当面の態度を協議した。その結果(1)三池の首切りを認めることは、今後十万人の炭鉱労働者の首切りを許すことになり、ひいては総評全体に対する合理化攻勢を強めさせることになる。(2)また三池の職場闘争は組合民主主義を職場から築きあげる総評の基本方針を先頭に立つて切り開いてきたものであるから、この戦線を崩すことは、自ら組合運動の基盤を破壊するものに通ずる。(3)久保清氏が殺されたことは多くの争議に対する暴力団の介入とともに資本が暴力によつて労働運動の全面的弾圧を企てていることを示しており、これに全国的行動で抗議しなければ凶暴な資本の民主主義否定を許すことになる。

中央合唱団の元気なわかものたちを囲んで

さあ！　メーデーだ

闘いの中で迎える第31回メーデー

◎…さあ！　メーデーがやつてきました。メーデーは労働者団結のシンボルです。働く仲間たちが固く結ばれたとき、私たちの未来は無限にひらけます。

ことしむかえる第三十一回メーデーは、つぎの三本の統一スローガンをきめました。

☆安保条約批准反対、軍縮と日中国交回復の促進、国会即時解散

☆社会保障制度の拡充、重税と物価値上げ反対、労働基本権の確立。

☆大幅賃上げ、完全な最低賃金制の確立、時間短縮と週休二日制の促進。

平和と権利と生活の向上をめざして、私たちは失われようとしている労働者の団結を、きたるべきメーデーを期して、もう一度築きなおさなければなりません。メーデーの起源は、その意義をつぎのように教えてくれています。

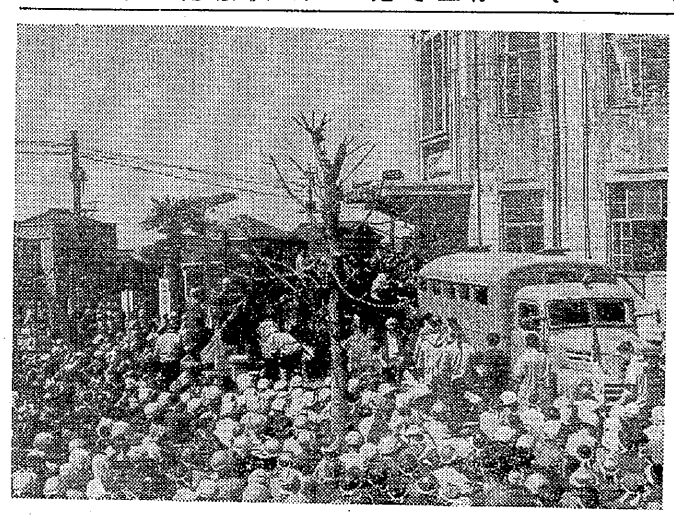
◎…一八八六年、今からざつと七十四年前の五月一日。アメリカの労働者は「八時間労働制」を要求して五千以上の工場で一せいにストライキに入りました。そのころ世界の労働者は〝日の出から日没まで〟無制限に働かされていたのです。弾圧にのりだした資本家と政府は、シカゴ市に近いミルウオーキーで九人の労働者を殺しました。憤激した労働者は五月四日、シカゴのヘイ・マーケツトで一大用いデモを組織しました。多くの警官が弾圧にかり集められましたが、その警官の中へ突然爆弾がなげこまれ、数人の警官が死にました。資本家と警察当局が仕組んだワナだつたのです。やがて四人の組合指導者が捕まり、首つり死刑にされました。その一人が死にのぞんでいつたのが「万国の労働者団結せよ！」という言葉だつたのです。やがてこの訴えは世界の労働者によつて受けとめられ、一八八九年パリでひらかれた第二インターナショナル（国際的な労働者組織）創立大会は毎年五月一日を全世界の労働者階級が団結する日として祝うことをきめたのでした

◎…どうです。ことし第三十一回メーデーを迎えようとする日本の情勢とあまりにもよく似ているではありませんか。さる三月二十九日、暴力団に刺し殺された久保清さんの尊い犠牲は、まだ昨日のことなのです。資本家や政府は昔も今も、労働者の力が団結して大きくなつてくると必ず暴力をふるい労働者同志を分裂させようとはかるのです。

まして今年は新安保条約の批准という大きな政治的課題を目前にひかえ、資本家や政府にとつては何よりも労働者の団結が恐ろしい存在になつていたのです。しかしメーデーの歴史が教えているように彼らが私たちの団結を血と暴力で打ちくだこうとしても、労働者はそれ以上の固いスクラムで立ち向うことができるのです。世界の労働者はことし、ロンドンでも、パリ、モスクワ、北京でも〝軍縮の実現〟をスローガンにメーデーを祝うことでしよう。日本の町々は〝安保条約批准反対〟のプラカードで埋めつくされることでしよう。そして日本の労働者と世界の労働者――万国の労働者は固く団結するのです。

◎…メーデーに掲げられるスローガンはまた、労働者だけでなく、農民、市民、学生、婦人、中小企業者など、すべての国民の願望をもになつているのです。なぜなら労働者の団結こそ社会を明るく豊かにする原動力だからです。「大幅賃上げ」「最低賃金制の確立」「時間短縮」「軍税、物価値上げ反対」「社会保障制度の確立」などのスローガンは、どれ一つとつてみても労働者を団結させる統一要求であるばかりでなく、岸政府の戦争政策とまともに対決する内容なのです。それは「ロツキードより賃上げを！」といつたプラカードになつて現われるのではないでしようか。幸いことしは〝日曜メーデー〟ですし、家族もふくめた大勤員で資本家や政府をふるえ上がらせようではありませんか。さあ！　地域でメーデーの準備をはじめましよう。

▽　▽　△



〝警察お早う〟と連日抗議はつづく